

序

当教育研究所は、平成3年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践研究の部に分けて原稿を募集しましたところ、社会教育、学校教育の関係者の方々から10編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、論説の部に3編、実践研究の部に7編の応募をいただきました。

論説の部では、3人の英語指導助手が本市の英語指導助手の活用並びに英語教育改善に向けて率直で建設的な提案を行っております。3人とも短い期間ではありますが自らの体験に根ざした提案であり、関係者にとりましては興味深い論文であります。

実践記録につきましては、社会体育の関係者から生涯スポーツの推進にかかわる2編の実践研究をいただきました。1編は、安足地区という広い地域にわたるスポーツクラブ数の推移から、地域スポーツ振興の方策を探ろうとする新しい試みであり、それぞれの地域における社会体育行政に対し多くの示唆を提供しております。もう1編は、本市体育文化振興会主催のファミリースポーツ教室を通しての実践研究であり、親子のコミュニケーションの重要性などにも配慮しつつ望ましい生涯スポーツの1つの方向を摸索するものであります。

学校関係では、関係者のみならず普通学級の先生方にも是非ご一読いただきたい情緒障害児教育の実践、同和教育に関して地域の人々の意識をしっかりと把握しながら進めている保護者啓発、動物を中心とした小学校低学年の教育、数学科における「問いと答えの間」の学習を大切にしたい学習者主体の授業づくりの試み、考える力の育成をめざして理科指導の継続研究に取り組んでいるグループによる実践研究第2報など、いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの教育関係者の方々から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきましたが、これらの論文は読者の皆さんの教育観を深める重大な契機となるにちがひありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分に生かされることを期待いたします。

なお、昨年度に引き続き今年度も、教育論文第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終りに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係の方々にお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成4年3月

足利市立教育研究所長

間 宵 勉